

人間の都市

菊竹清訓

井上書院

1. 都市への提案

2. 市民の都市

3. 都市デザインの方法論

4. 環境産業と都市住宅

5. 都市環境の進化

— 環境設計—都市進化のプロセス

— 都市空間の論理—文化の形成

環境設計という問題を取り上げる理由

- ①環境としての都市の混乱 (p252・L1)
- ②都市に対する技術主義的アプローチの限界 (p253・L1)
- ③都市に対する個の参加の問題 (p253・L8)

環境設計という問題を取り上げる理由

①環境としての都市の混乱 (p252・L1)

②都市に対する技術主義的アプローチの限界 (p253・L1)

③都市に対する個の参加の問題 (p253・L8)

①環境としての都市の混乱

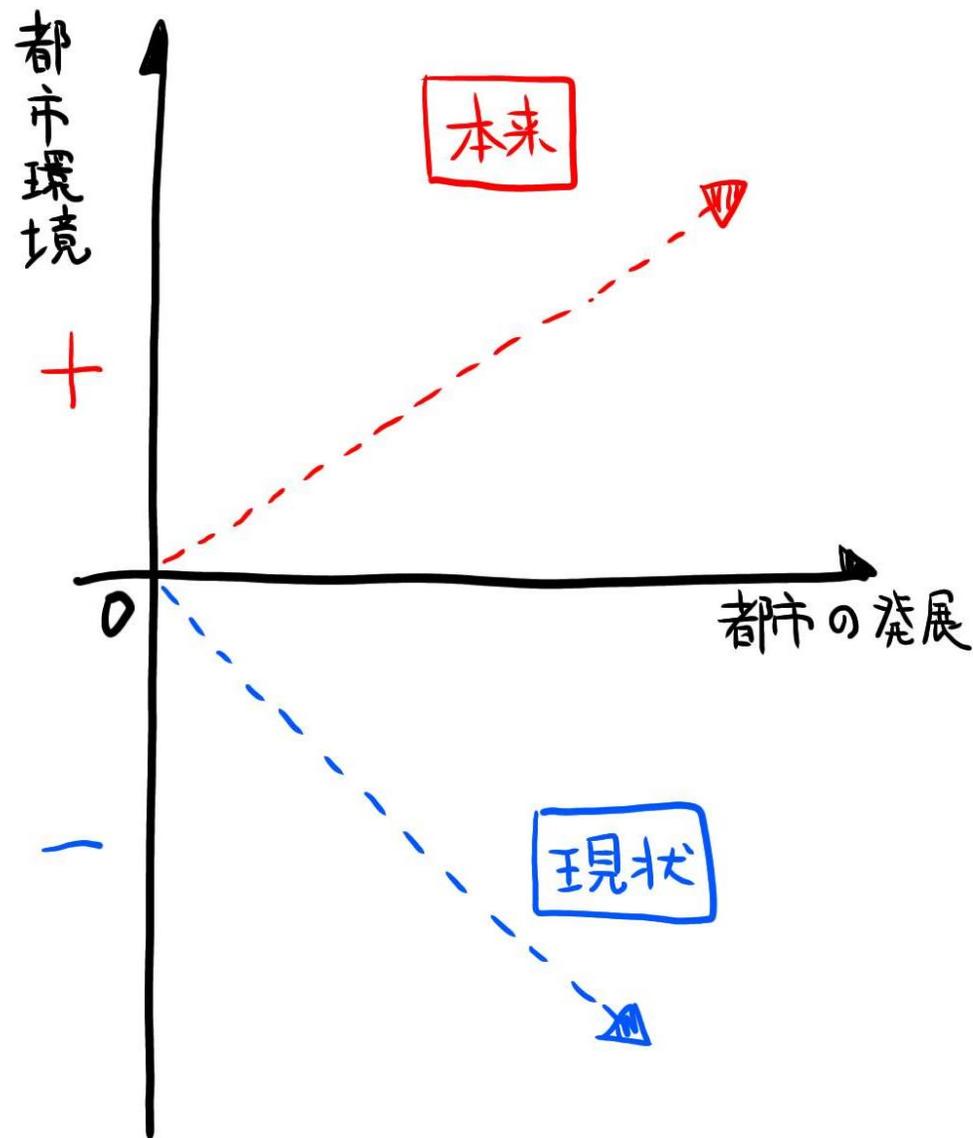
本来

都市の発展 = 都市環境の向上

↓ But...

現状

都市の発展と都市環境の**逆比例**

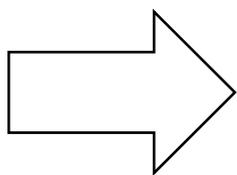
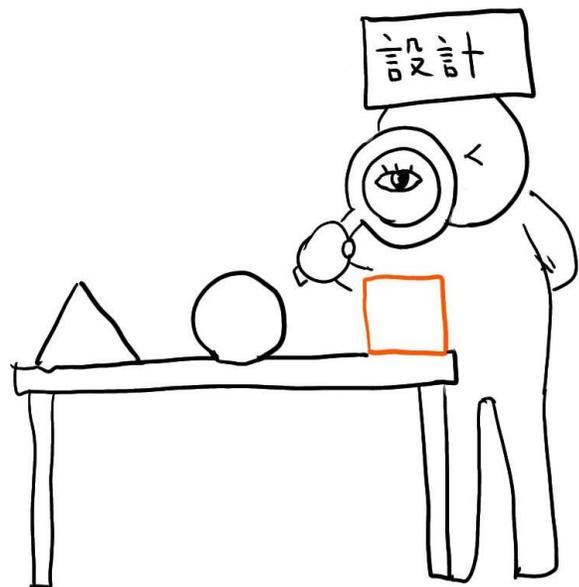


①環境としての都市の混乱

混乱を秩序へ導く**解決策**の1つ

- ・設計という立場から都市を考える

1つ1つ見るより…



全体として、全人間的に



環境設計という問題を取り上げる理由

①環境としての都市の混乱 (p252・L1)

②都市に対する技術主義的アプローチの限界 (p253・L1)

③都市に対する個の参加の問題 (p253・L8)

②都市に対する技術主義的アプローチの限界

- ・近代建築が獲得して築いた理論
 - 技術主義のもと、同様に都市に導入
- ・技術の進歩 = 都市の進歩という錯覚

②都市に対する技術主義的アプローチの限界

解決策

技術主義に対する人間主義という立場でのアプローチ

環境設計という問題を取り上げる理由

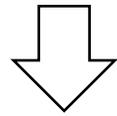
- ①環境としての都市の混乱 (p252・L1)
- ②都市に対する技術主義的アプローチの限界 (p253・L1)
- ③都市に対する個の参加の問題 (p253・L8)

③都市に対する個の参加の問題

計画…全体の立場で環境の問題を取り扱う(①)

+

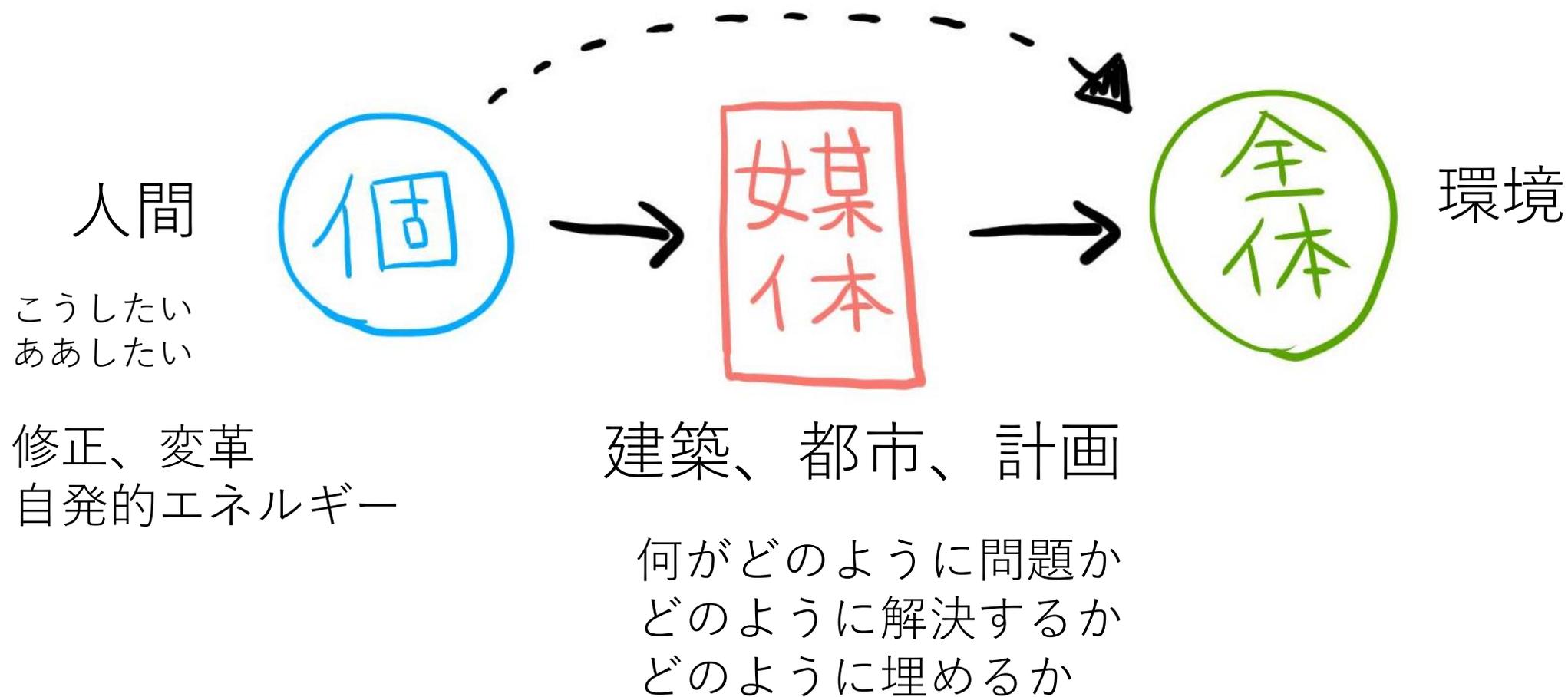
個々の側からの全体参加



計画…主体参加に刺激と
方向づけのきっかけを与える

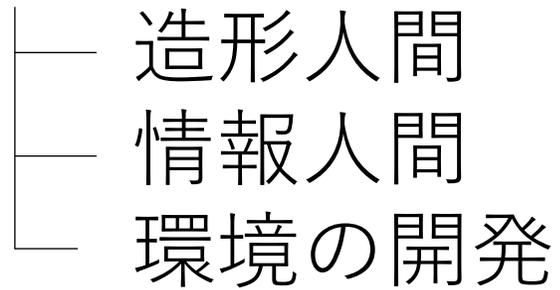


③都市に対する個の参加の問題



- 環境は個と全体の相剋によって革新されるものではないか
- 自発性の重要な意味

- 環境は個と全体の相剋によって革新されるものではないか

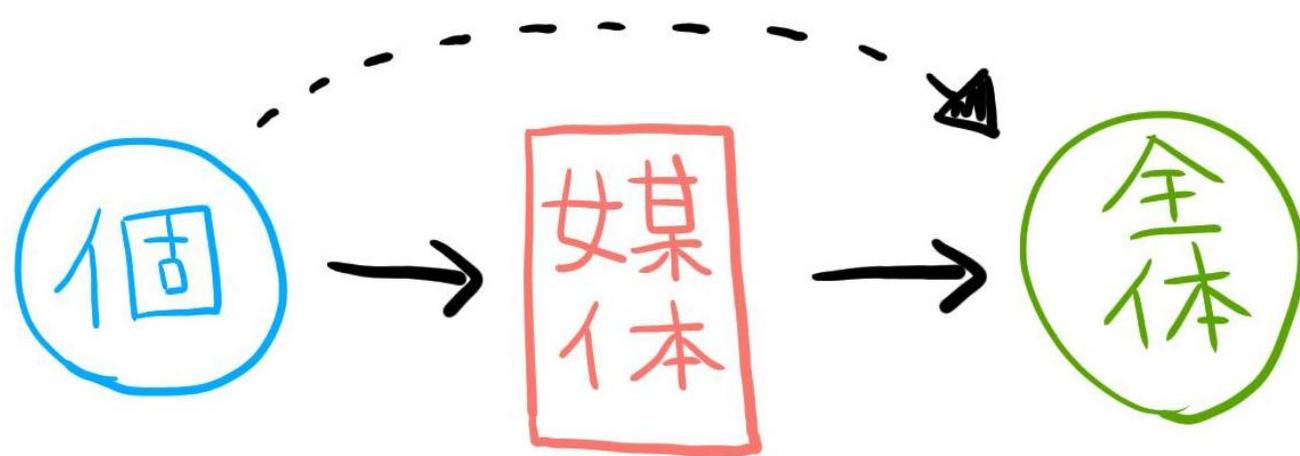


- 自発性の重要な意味

個と全体との相剋による環境の革新—造形人間

造形…人間が何らかの**実体**を媒介にして環境とかがわり合うこと

環境の革新に不可欠

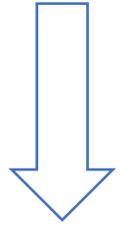


建築、都市という実体

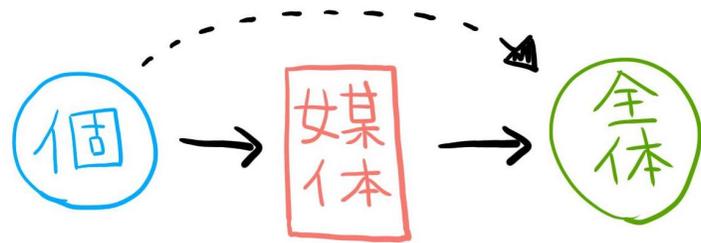
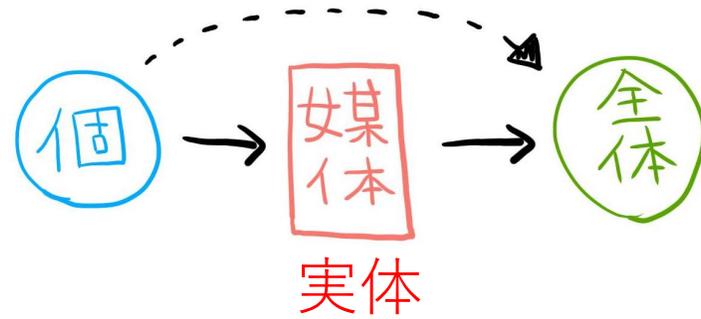
歴史を動かし、世界を革新し、進化させる造形人間

個と全体との相剋による環境の革新—情報人間

造形人間



情報人間



媒体は実体にイメージを加えた総体へ

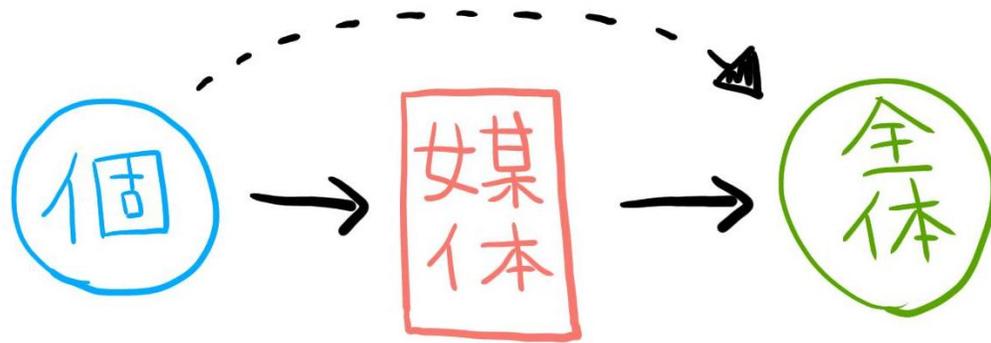
実体+イメージ → 革新のエネルギーの中心

さらなる矛盾を生み、革新へ

※物的環境とイメージの世界との断絶を考える

個と全体との相剋による環境の革新—環境の開発

1. 個→媒体→全体



革新への変化のエネルギー

2. 環境開発は相対的概念

総体に働きかけるプロセスの流れが大切

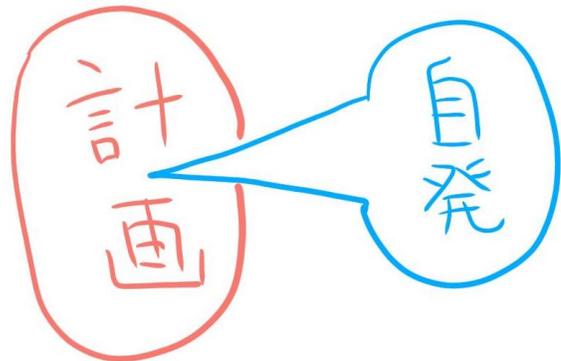
個と全体との相剋による環境の革新—環境の開発

3. 自然発生と計画の相互関係

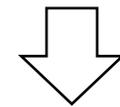
× 技術偏向

自発的エネルギーが排除されてしまう

自発性は計画を揺さぶる存在



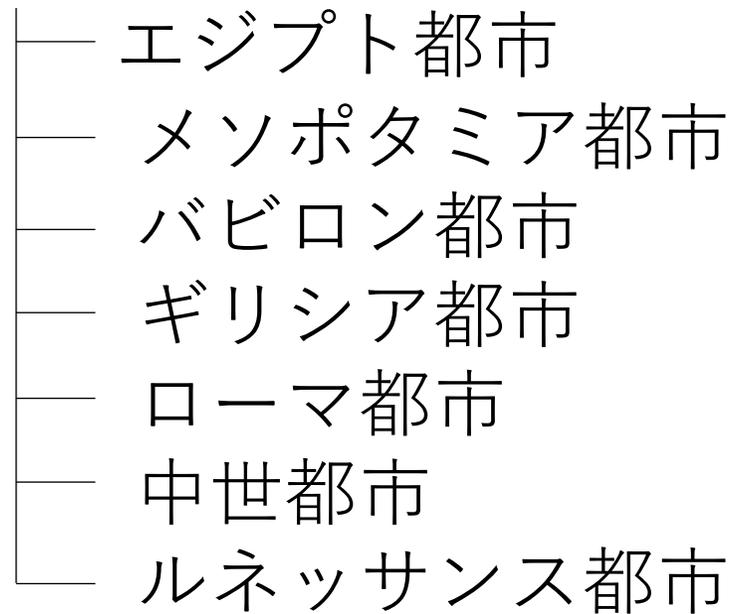
設計によって、計画に自発性を組み入れる



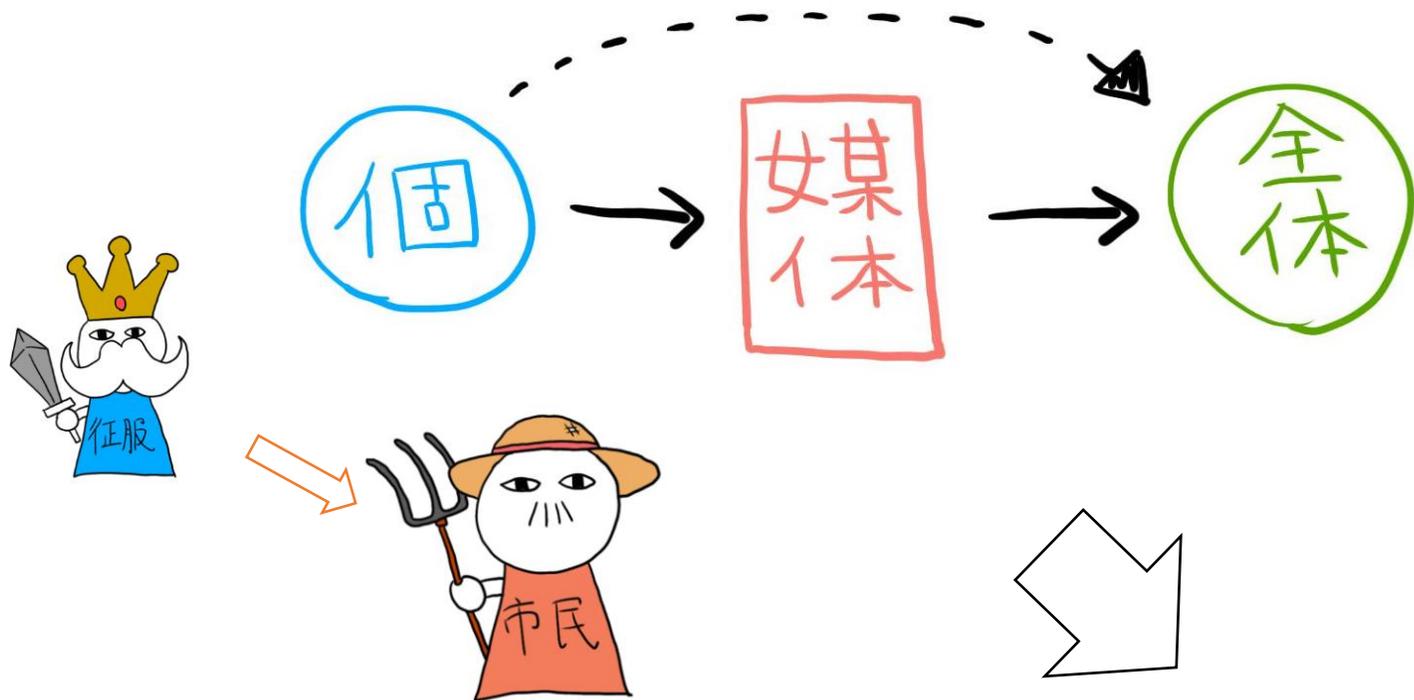
環境の人間化

- 環境は個と全体の相剋によって革新されるものではないか

- 自発性の重要な意味—都市の歴史



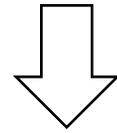
- ・ 特定権力者のままにまかされてはいけない
- ・ 個の主導が権力者からエネルギーを持った自由な市民へ



市民の都市の幕開け

菊竹の主張

- ・ 計画は自発性のある市民参加が不可欠
- ・ 自発性を絶えず取り込むものとして、都市設計を捉える



計画は自己革新し続ける機能となる

技術主義的計画 ⇐ 設計 ⇒ 人間主義的計画

人間の都市

菊竹清訓

井上書院

1. 都市への提案

2. 市民の都市

3. 都市デザインの方法論

4. 環境産業と都市住宅

5. 都市環境の進化

— 環境設計—都市進化のプロセス

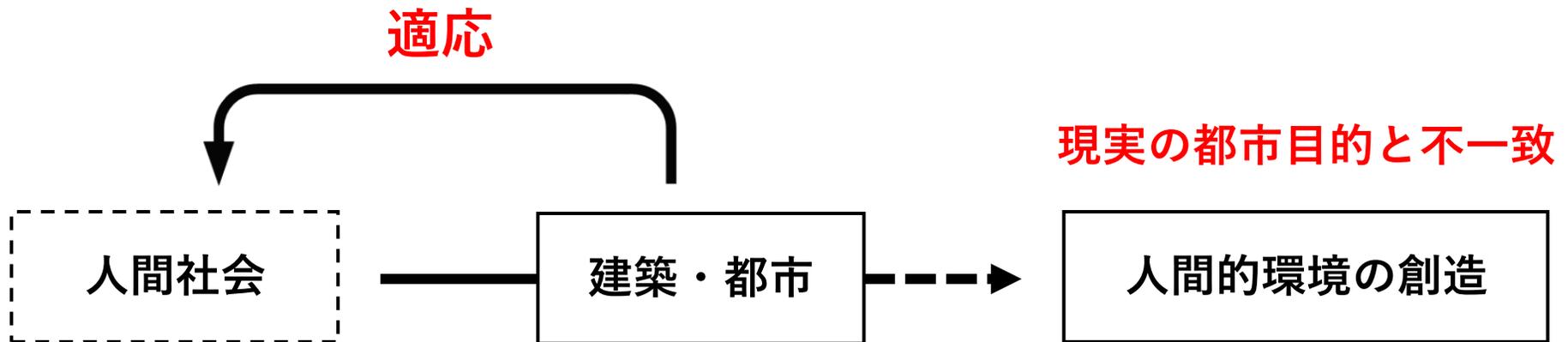
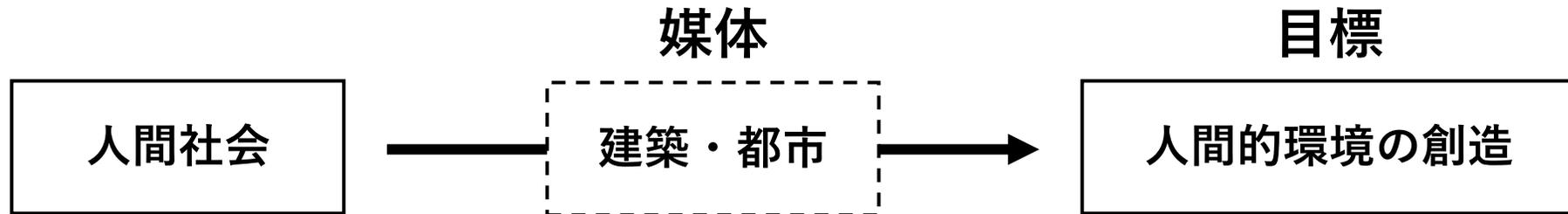
— 都市空間の論理—文化の形成

人間の都市

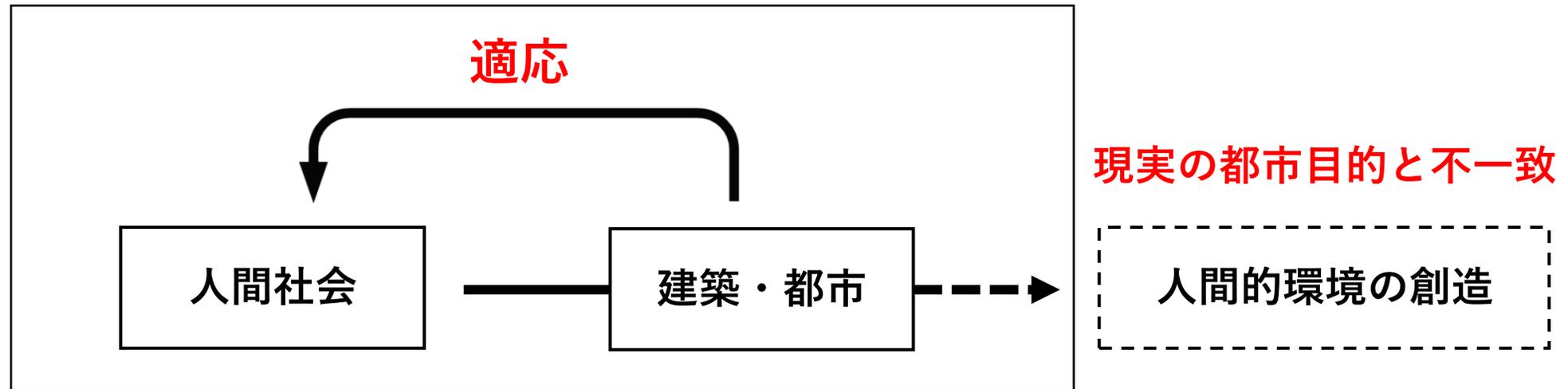
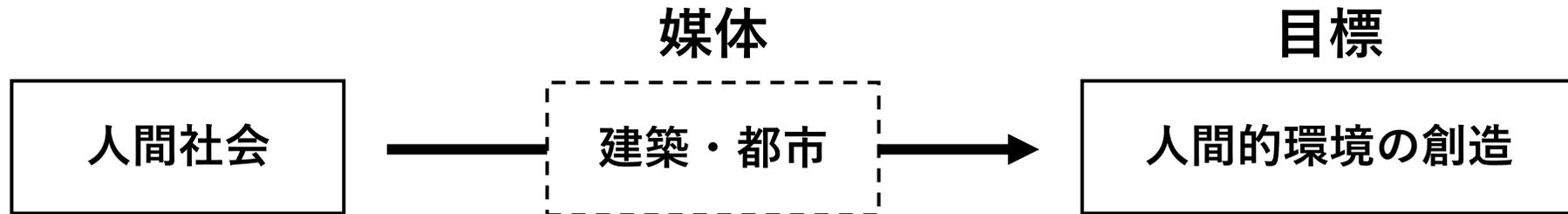
p.276 環境空間への適応

21/09/24 水田

環境空間への適応 p.276



環境空間への適応 p.276



p.276 環境空間への適応

p.281 都市設計の方法

都市計画 (City Planning)

計画技術

都市設計 (Urban Design)

都市生態学：物理的空間形態学、経済的・社会的・歴史的問題

(1)景観的段階、(2)計画技術的段階、(3)構想的段階

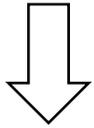
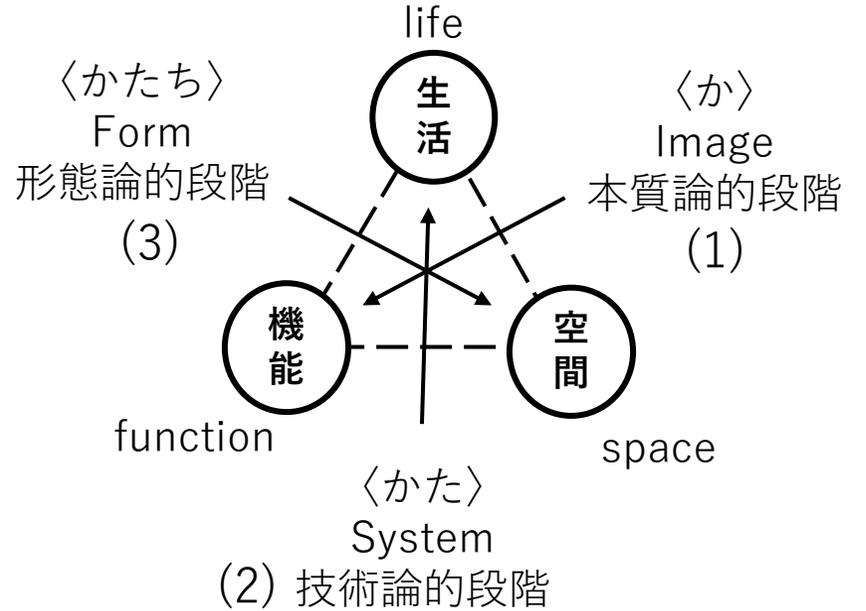
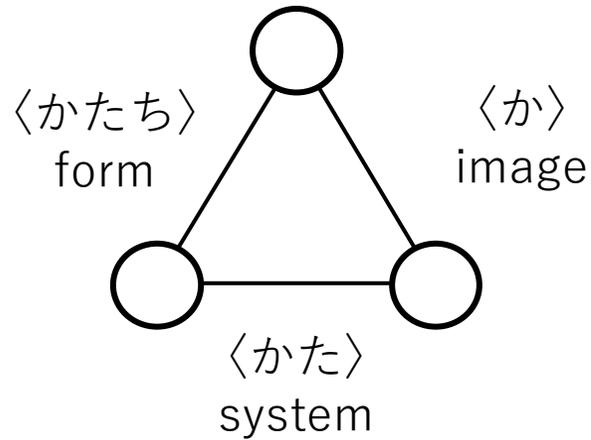
3 都市デザインの方法論

都市設計の方法——都市景観・都市機能・都市空間 (p.142)

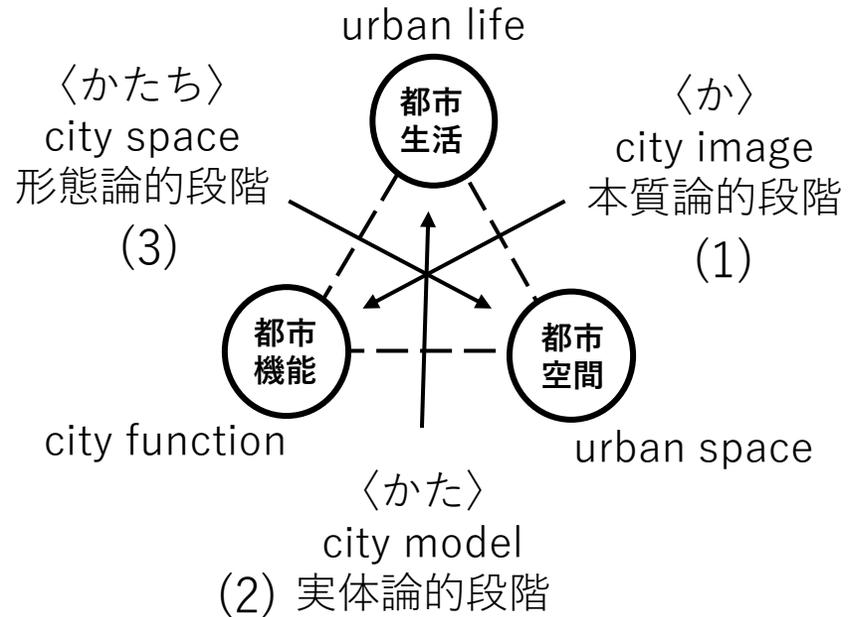
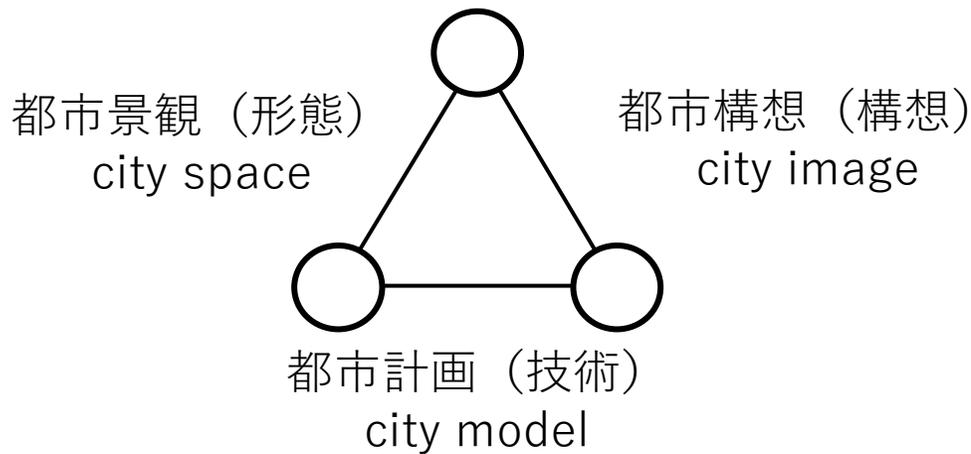
5 都市環境の変化

都市空間の論理——文化の形成 (p.276)

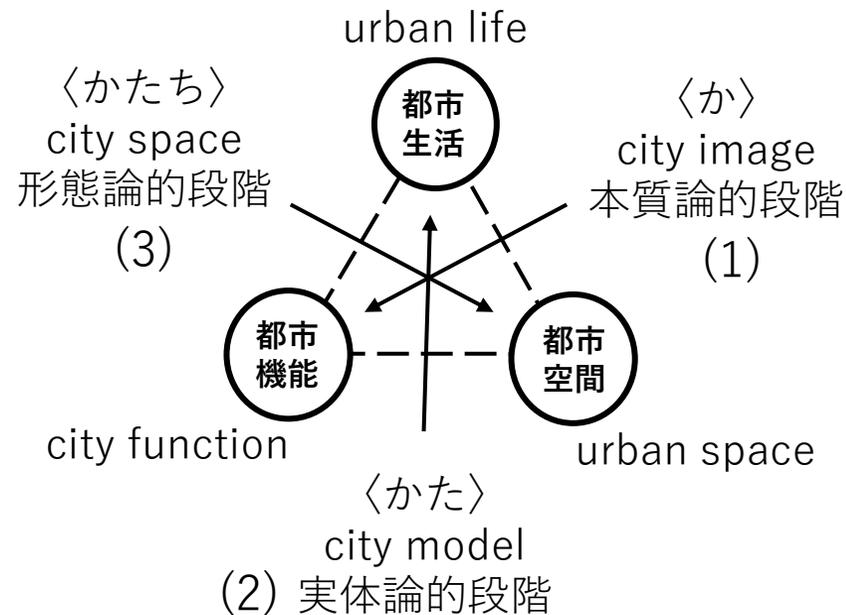
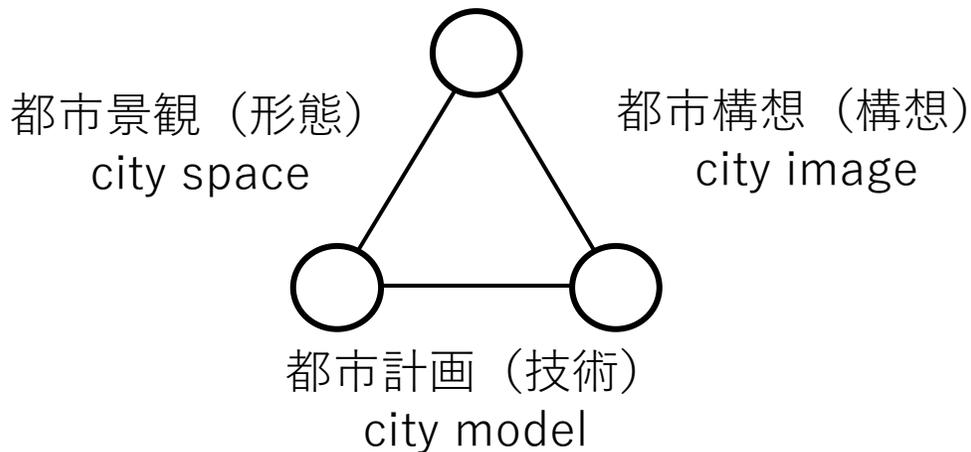
デザイン



都市設計



都市設計



実践のプロセス

(1) 本質論的段階 → (2) 実体論的段階 → (3) 形態論的段階

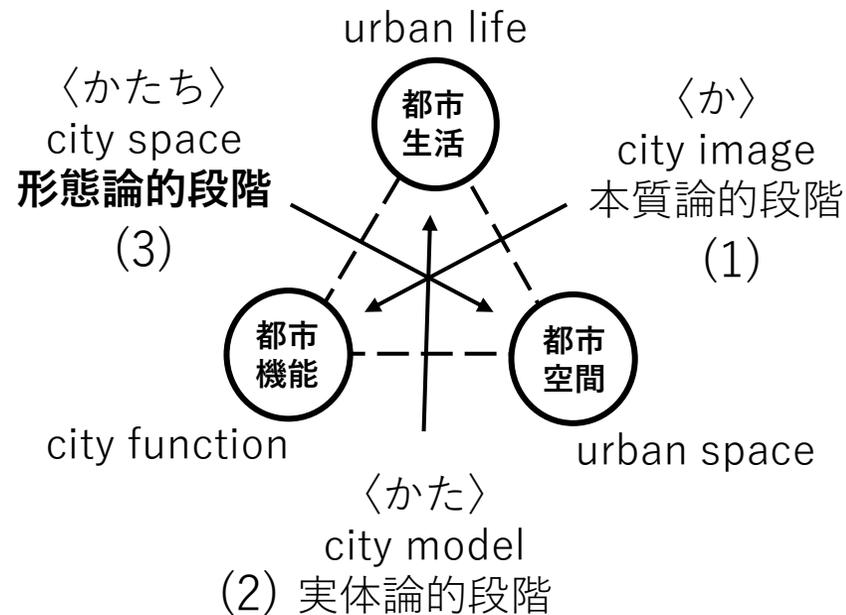
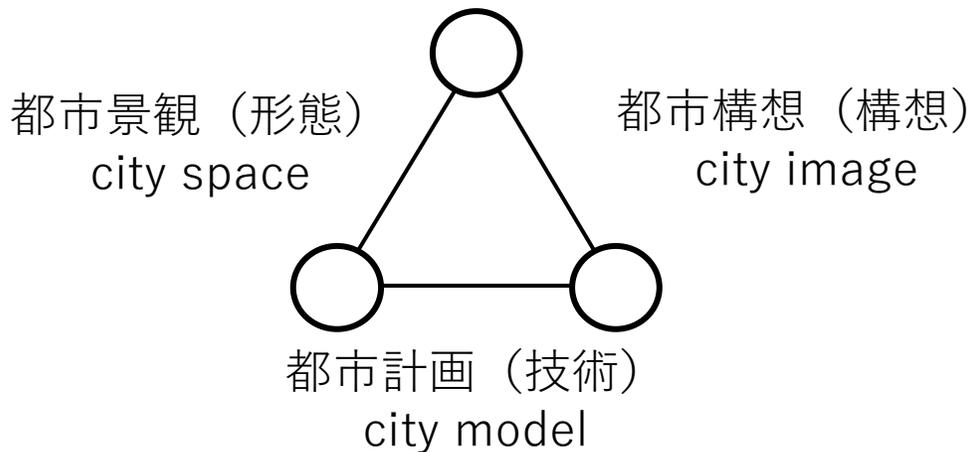
認識のプロセス

(3) 形態論的段階 → (2) 実体論的段階 → (1) 本質論的段階

「市民の参加、市民意識の向上などは、すべてこの段階に深い関係をもっている。」 (p.146 l.4)

市民と計画者との橋渡しになる段階

都市設計



都市設計：市民の立場

- 1 市民の行動に対応する空間環境、刺激＋誘導の相互適応
- 2 都市形態・景観という物理的に市民に容易に理解できる接点

ケビン・リンチ

- ・ 都市形態から都市へのアプローチ
- ・ 誰にでもよく理解できる都市空間の形態を媒体

都市空間の形成 p.285

都市空間：人間社会の生活環境装置

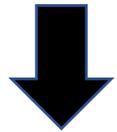
「都市に表れた特徴的景観を問題として取り上げながら、それが社会生活、都市機能にどのような関係をもち、どのような背景から生まれてきたか、またそれが社会にとって望ましいものであったかなかったかを、都市空間の形成にみておきたい。」

〈西欧都市の形成〉 p.286

	特徴的景観	社会生活 都市機能	背景
ギリシア	格子状外路のパターン アゴラ	都市空間の向上、 均質化	市民の発生
ローマ	フォーラム (道路と広場が一体)	交通・集会の機能、街 区の外部空間 = 空間的 公共	
中世	城壁、中央広場、教 会・市庁舎・ギルド・ ハウス (都市の中心)	経済的空間	市民のビヘービアが都市内 で完結
ルネサンス・バロック	放射状の道路パターン、 多心型、軍用広場	均質・機械的な市民の 生活空間	宇宙観の変容 (地動説の登 場)、国家権力の肥大化、 機能分化・特化

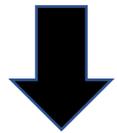
〈西欧都市の形成〉 p.286

ギリシア、ローマ、中世、ルネッサンス・バロック



公共骨格と生活空間に亀裂、**住居環境**の空間形態

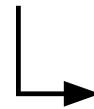
ハウードの田園都市（イギリス）・ガルニエの工業都市（フランス）、近隣住区、CIAMのアテネ宣言



機能主義に基づく都市構成、**機能**に基づく空間形態

チーム・テン、メタボリズム・グループ

変化・成長する都市空間、**未来環境**（空間的・時間的）



環境空間の革新

〈日本都市の形成〉 p.295

- ・ あいまいな敷地と道路の境界
 - ↳ 格子状の道路パターンを形成する塀が重要な環境装置
- ・ 城下町
 - ↳ 武士と農民の空間的対応
- ・ 武士・町人・職人・農民が混在：一時的都市状態
 - ↳ 都市は永住するところではなく、**仮の環境だという意識**

「路地」…独特の生活と都市空間の対応が存在
セミ・パブリック・スペース

都心と住居の断絶的な状況をうめるセミ・パブリック・スペースとしての「路地」のような**新たな環境装置が必要**

都市設計の諸問題 p.301

現代の都市活動にふさわしい**環境空間の探求・獲得**

経済的な成長・発展、公共・住宅に対する旺盛な投資、社会的拘束や偏見の少なさ、宗教的制約や階層・種問題がない、高度の教育…
市民意欲の低さ、物的環境に対する信頼よりは仮住まいという意識の強さ、利用可能な土地の絶対量が少なく細分化、新しい環境の自己生成と変革の経験に乏しい…

現代の環境空間の問題

- ・ 我が国の特徴的問題
- ・ 現代の特徴的問題
- ・ 世界的に現代の特徴的問題

都市設計の諸問題 p.301

p.302 〈複合化の問題〉

複合化したコングリゲートな環境と人間生活の関わり：環境空間に人間性を回復

p.295 〈濃密化の問題〉

環境空間が密度の増加：都市における空間代謝が活発化（都市設計による都市意識の変化を加える必要がある）

p.306 〈装置化の問題〉

原単位空間と公共骨格による装置的環境：都市環境の人間化

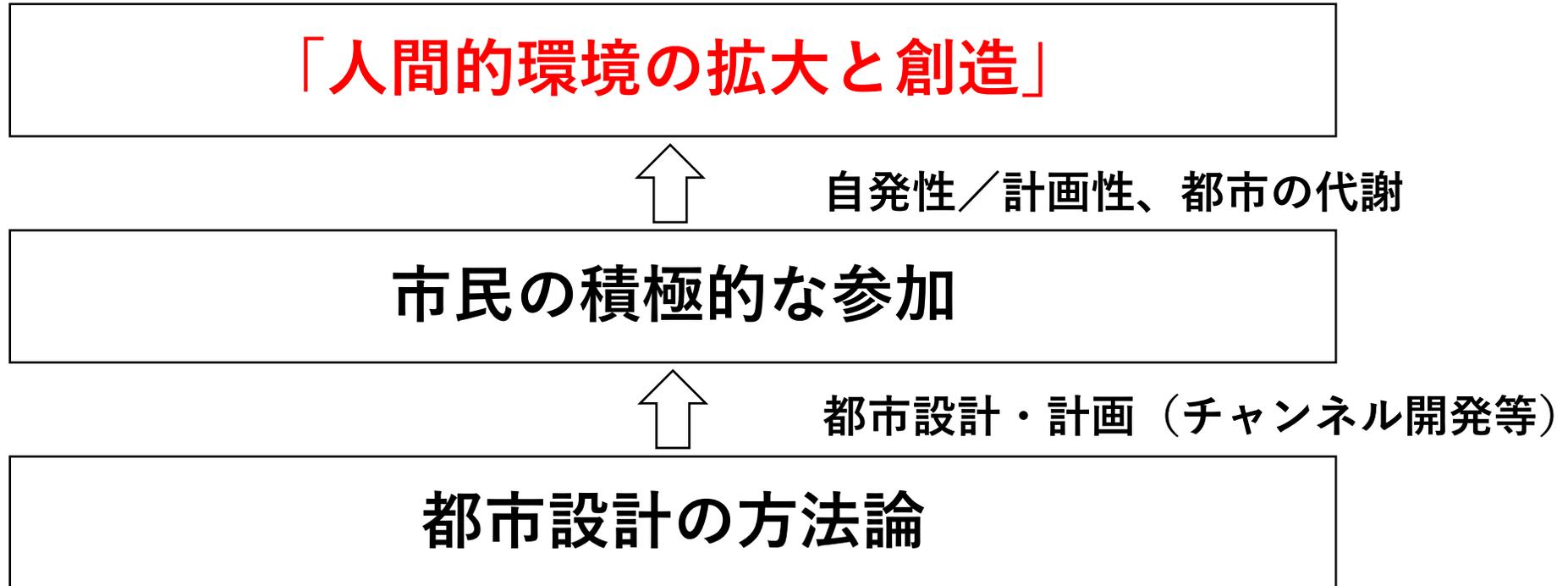
p.310 〈代謝と制御のメカニズム〉

環境空間には〈取り換えのシステム〉が不可欠

p.312 〈情報化の問題〉

超建築：人間の環境の形成が達成

環境の人間社会への適応 p.315



「でき上がったあとで全体を通してみると、**都市設計**の立場というより**市民**の眼で、さらに**市民**というより**人間**の立場から都市がどうならなければならないかを考えようとしているといえる。」（p.318 l.8）